2023年度成人科テキスト

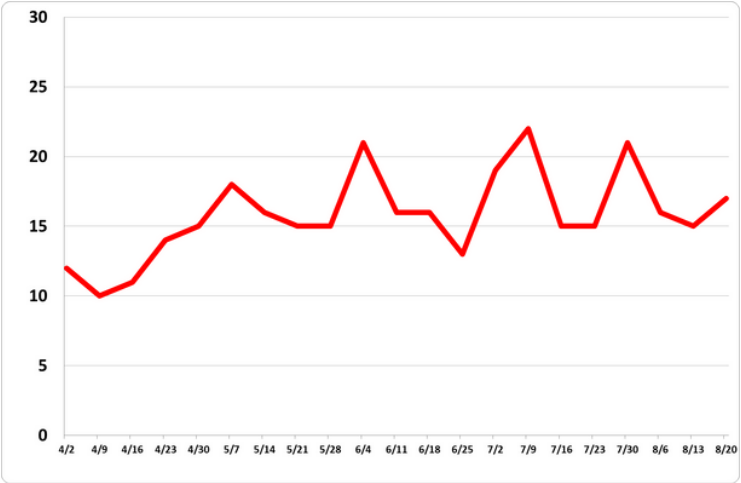
「聖書日課と分かち合い」9月号

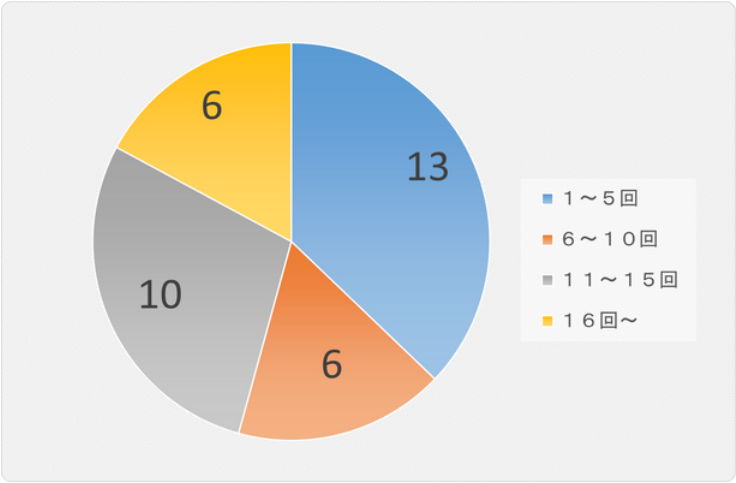
名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お知らせ

- 毎週、成人科を行っています。ぜひご出席ください。
  １０：１５～１０：５０　**地下フェロシップホールにて**
- **受付で出席表に記入し、グループ分けの番号札を引いてから着席ください。**
- **後から来られる方のために、前列への着席にご協力をお願い致します。**
- 「聖書教育」誌の購読をお勧めしています。このテキストと併せて、ぜひお読みください。ご希望の方は事務室までお知らせください。
- このテキストのボックスへの配布をご希望される方は、担当者（岩崎秀子姉、宇佐美典子姉、郷健人兄）までお知らせください。
- ショートメッセージ動画は教会ホームページ上でも視聴できます。10：15 のスタートには間に合わない・・・という方や、お休みされた方、もう一度聞きたい思われる方など、ぜひご活用ください。

学びの輪を広げましょう！





暑さにも負けず、心燃やされる分かち合いの時が毎週持たれています。テキストをお読みくださっている皆様も、ぜひ毎週日曜10：15～の成人科にご出席ください！

ある日の成人科ミーティング…

執筆奉仕者が集まり、編集会議を行います。
書きながら迷ったこと等を語ったり、読んでみて感じたことを聞き合ったり…。
少しでも良い学びの時間が持てるよう、まずは奉仕者たちが共に学ぶことを大切にしています。

今月の執筆者

（左：ショートメッセージ　右：聖書日課）

23課：田中由記子姉　宇佐美典子姉

24課：郷　健人兄　栗山義亜兄

25課：岩崎秀子姉　渡部和子姉

26課：郷　秀男兄　小沢敬一兄

第23課　「洪水の終わり」

聖書箇所：創世記8章1～22節
主題聖句：主は宥めの香りをかいで御心に言われた。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。」（創世記8：21）

ノアが神さまの言葉に従って、箱舟に乗ってから七日の後、雨が降り始めました。その雨は四十日四十夜降り続き、大洪水となり、箱舟に乗った以外の、地上のすべての生き物がぬぐい去られました。その中で、神さまは、箱舟に乗ったノアと動物たちのことを心に留めておられました。試練の中にあるノアが信仰を失わずに、この試練を乗り越えることを願い、祈っておられたのです。

神さまが風を吹かせられたので、水が減り始めました。この「風」（ルーアハ）は、創世記１章２節の「神の霊が水の面を動いていた」の「霊」と同じです。神さまによる「再創造」が始まったのです。

150日たって、やっと箱舟はアララト山の上に止まりました。
長い箱舟生活…一刻も早く外に出て、地面を踏みしめたいところでしょうが、ノアはそうしませんでした。まず烏、次に鳩を放します。三度目に放した鳩がオリーブの葉をくわえて戻って来た七日後に放したハトはもう戻っては来ませんでした。
地がすっかり乾いてから、神さまは「さあ、…皆一緒に箱舟から出なさい。」とおっしゃいました。今か今かと待っていたであろうノアは、その神さまの言葉に従い、箱舟から出ました。
「箱舟を造りなさい」（6:14）「箱舟に入りなさい」（7:1）「箱舟から出なさい」（8:16）の神さまの言葉に、ノアは従いました。しかも、ノアの言葉は一言も書かれていません。「雨はいつやむのですか？」「早く洪水を収めてください」「私たちは本当に助かるのでしょうか？」…聞きたいこと、言いたいことはたくさんあったに違いありません。しかし、自分の理解を超えていることも、腑に落ちないことも、「神さまがおっしゃることならば」と従うノア。神さまにどれだけ従順であったかがわかります。鳩がオリーブの葉をくわえて戻ってきたことで、水が引き、植物が生えているとわかっても、神さまに言われるまでは箱舟から出ませんでした。ノアは、神さまのすべてを信じ、すべてを委ねて、従う人だったのです。

地上に降り立ったノアが、真っ先にしたことは礼拝でした。水が引いたとはいえ、これから自分たち家族や動物たちが生活する場所を見つけ、食べ物や水も確保しなければなりません。やることはたくさんあったはずです。しかし、ノアは、まず、主のために祭壇を築き、清いものを焼き尽くす献げ物としてささげたのです。洪水後の新しい生活を礼拝をもって始めたノア。私たちも主日の礼拝をもって新しい一週間の生活を始められる幸いに感謝いたします。

ノアの行いを見て、神さまはとても喜ばれました。ノアの信仰が少しもなくなっていなかったからです。そして、神さまは、「人に対して大地を呪うことは二度とすまい」とおっしゃるのです。21節の中で、2回「二度とすまい」とおっしゃいます。しかも、この言葉は、ノアに語ったのではなく、御心に言われたのです。つまり、神さまがご自身に言い聞かせるようにおっしゃったのです。

洪水の前も後も私たち人間の罪深さは変わりません。しかし、神さまは、罪深さも含めて私たち人間を受け入れ、共にあることを心に決めてくださいました。

地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた（6:6）神さまは、大洪水を起こされました。そして、ノアの箱舟が水の上を漂っている間、ずっと、彼らを御心に留め（8:1）、洪水が終わった今、生き物をことごとく打つことは、二度とすまい（8:21）と決意されました。なんと大きな神さまの愛でしょうか。

現在の私たちは、祭壇に動物の犠牲をささげることはしません。しかし、方法は違っても、神さまを信じて、すべてを委ね、すべてをささげる礼拝はできるはずです。大きな愛と忍耐とをもって、私たちを包み、守ってくださる神さまに感謝し、神さまに喜ばれる礼拝をいたしましょう。

～分かち合い～
・自分がノアだったら、箱舟から降りて真っ先にすることは何でしょうか？
・あなたにとって、すべてをささげる礼拝とはどのような礼拝でしょうか？

９月３日（日）創世記８章１－２２節

1神は、ノアと彼と共に箱舟にいたすべての獣とすべての家畜を御心に留め、地の上に風を吹かせられたので、水が減り始めた。 2また、深淵の源と天の窓が閉じられたので、天からの雨は降りやみ、 3水は地上からひいて行った。百五十日の後には水が減って、 4第七の月の十七日に箱舟はアララト山の上に止まった。 5水はますます減って第十の月になり、第十の月の一日には山々の頂が現れた。

6四十日たって、ノアは自分が造った箱舟の窓を開き、 7烏を放した。烏は飛び立ったが、地上の水が乾くのを待って、出たり入ったりした。 8ノアは鳩を彼のもとから放して、地の面から水がひいたかどうかを確かめようとした。 9しかし、鳩は止まる所が見つからなかったので、箱舟のノアのもとに帰って来た。水がまだ全地の面を覆っていたからである。ノアは手を差し伸べて鳩を捕らえ、箱舟の自分のもとに戻した。 10更に七日待って、彼は再び鳩を箱舟から放した。 11鳩は夕方になってノアのもとに帰って来た。見よ、鳩はくちばしにオリーブの葉をくわえていた。ノアは水が地上からひいたことを知った。 12彼は更に七日待って、鳩を放した。鳩はもはやノアのもとに帰って来なかった。

13ノアが六百一歳のとき、最初の月の一日に、地上の水は乾いた。ノアは箱舟の覆いを取り外して眺めた。見よ、地の面は乾いていた。 14第二の月の二十七日になると、地はすっかり乾いた。

15神はノアに仰せになった。

16「さあ、あなたもあなたの妻も、息子も嫁も、皆一緒に箱舟から出なさい。 17すべて肉なるもののうちからあなたのもとに来たすべての動物、鳥も家畜も地を這うものも一緒に連れ出し、地に群がり、地上で子を産み、増えるようにしなさい。」

18そこで、ノアは息子や妻や嫁と共に外へ出た。 19獣、這うもの、鳥、地に群がるもの、それぞれすべて箱舟から出た。

20ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥のうちから取り、焼き尽くす献げ物として祭壇の上にささげた。 21主は宥めの香りをかいで、御心に言われた。

「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい。

22地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも
寒さも暑さも、夏も冬も
昼も夜も、やむことはない。」

１年と１０日ぶりに箱舟から外に出たノアは、何よりもまず最初に祭壇を築き、家畜と鳥の中から清いものを献げ物とし、神への礼拝をささげました。神は人に対して大地を呪うことは二度としないと約束され、ノアと彼の息子たちを祝福してくださいます。食料や住まいの調達よりも神への礼拝を最優先にするノアの敬虔さに倣いたいです。

９月４日（月）詩編１３９編7-８節

7どこに行けば

あなたの霊から離れることができよう。

どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。

8天に登ろうとも、あなたはそこにいまし

陰府に身を横たえようとも

見よ、あなたはそこにいます。

神は私たちが「座るのも立つのも知って」おり（139：2）「前からも後ろからも囲み」（139：5）天にいようと、陰府にいようと、どこにいようとも共にいてくださいます。神がすべてをご存じで、私たちをいつも忘れていないということは、まことに心強くとても大きな支えです。

９月５日（火）コヘレトの言葉３章１－８節

1何事にも時があり

天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

2生まれる時、死ぬ時

植える時、植えたものを抜く時

3殺す時、癒す時

破壊する時、建てる時

4泣く時、笑う時

嘆く時、踊る時

5石を放つ時、石を集める時

抱擁の時、抱擁を遠ざける時

6求める時、失う時

保つ時、放つ時

7裂く時、縫う時

黙する時、語る時

8愛する時、憎む時

戦いの時、平和の時。

何事にも時があるとコレヘトは言います。私たちは神の思いやお考えをすべて理解することはできませんが、すべてのことは神のみこころであり、神がすべての時を定められています。

９月６日（水）マタイによる福音書６章３３-３４節

33何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。 34だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

神の国と神の義を求めるとは、罪の中にある私たちをイエス・キリストが救ってくださったと信じることです。からし種は本当にちいさな種ですが、成長すると3m、4mの大きな木になります。心の中にある神の国の種に水や肥料を与え、からし種のようにしっかり根を張り大きく丈夫な木に育てましょう。イエスさまを信じ従うことが一番の肥料です。

９月７日（木）創世記１章２６-３１節

26神は言われた。
「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」
27神は御自分にかたどって人を創造された。
神にかたどって創造された。
男と女に創造された。
28神は彼らを祝福して言われた。
「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」
29神は言われた。
「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。 30地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」
そのようになった。 31神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

私たちは神のかたちに似せて造られた神の作品です。意思、感情、知性を持って神と交わることができる存在として造られたのです。生きものの内で人間だけが神を礼拝することができるのです。今日も命の源である神に繋がり力をいただいて生かされていることを感謝し、心から礼拝をお献げしましょう。

９月８日（金）レビ記１７章１０-１４節

10イスラエルの家の者であれ、彼らのもとに寄留する者であれ、血を食べる者があるならば、わたしは血を食べる者にわたしの顔を向けて、民の中から必ず彼を断つ。 11生き物の命は血の中にあるからである。わたしが血をあなたたちに与えたのは、祭壇の上であなたたちの命の贖いの儀式をするためである。血はその中の命によって贖いをするのである。 12それゆえ、わたしはイスラエルの人々に言う。あなたたちも、あなたたちのもとに寄留する者も、だれも血を食べてはならない。
13イスラエルの人々であれ、彼らのもとに寄留する者であれ、食用となる動物や鳥を捕獲したなら、血は注ぎ出して土で覆う。 14すべての生き物の命はその血であり、それは生きた体の内にあるからである。わたしはイスラエルの人々に言う。いかなる生き物の血も、決して食べてはならない。すべての生き物の命は、その血だからである。それを食べる者は断たれる。

尊い命の犠牲によって（血によって）贖われるから「血を食べてはいけない」と戒めています。私たちは主イエスの血潮によらなければ、霊的な命を受けることはありません。命は主の流された血潮の中にあり、主を信じ、そこを通らなければ神のところへは行くことができないのです。

９月９日（土）イザヤ書５５章３-７節

3耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。
聞き従って、魂に命を得よ。
わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。
ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。
4見よ
かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし
諸国民の指導者、統治者とした。
5今、あなたは知らなかった国に呼びかける。
あなたを知らなかった国は
あなたのもとに馳せ参じるであろう。
あなたの神である主
あなたに輝きを与えられる
イスラエルの聖なる神のゆえに。
6主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。
呼び求めよ、近くにいますうちに。
7神に逆らう者はその道を離れ
悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。
主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば
豊かに赦してくださる。

私のもとに来て魂に命を与える言葉を聞きなさいと語っています。ダビデを愛したように神さまは私たちのことも同じように永遠に愛してくださいます。感謝してこの言葉に聞き従うとき、私たちは希望と喜びに満ち豊かに生きることができるのです。

第24課　「約束の虹」

聖書箇所：創世記9章1～17節
主題聖句：わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。（創世記9：15）

5回にわたる「ノアの箱舟」シリーズ、第4回です。一般的にはここまでの出来事が一連のストーリーとして語られることが多いでしょう。そして今日の箇所は、大体これくらいの文量で触れられるはずです。

「箱舟から出たノアたちに神さまは虹を見せ、二度と洪水で生き物を滅ぼすことはしないと約束されましたとさ。おしまい」

虹の壮大さと美しさは、神さまからの大切なお約束の象徴として飲み込みやすく、壮絶な洪水物語の締めくくりとしても適しています。しかし、もはや展開自体は頭に入っているつもりの「ノアの箱舟」ですが、あらためて聖書を開いて御言葉を読んでみると、思った以上に難解なことが書いてある…と、驚かされました。

神さまは箱舟を出たノアたちに、「産めよ、増えよ、地に満ちよ。」と、創世記1章で最初の人に言われたのと同じ言葉を通して祝福されました。9章の1節と７節でこの言葉が繰り返されますが、その間で語られていることは大きく3つに分けられます。「すべての生き物についての委託」「肉食の許可」「殺人への警告」です。

9：2
地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと海のすべての魚と共に、あなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手にゆだねられる。
ここは、1：28の「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」という箇所と概ね同じ言葉が使われています。一度は人間に失望し、創造を後悔し、洪水で滅ぼされた神が再び、人間に世界の一部を委ねてくださったのです。
ただし1章では、9章にある「恐れおののき」というニュアンスは含まれていないように思います。1～2章では、人が創造された後、神が次々に動物を造り、人がそれを何と呼ぶのか見ておられました。しかし「自分に合う助ける者」は見つけられなかったことから、女が創造されたと書かれています。「助ける者」になる他の動物がいるか探す程に、人と動物の垣根はまだそこまで高くなかったように読み取れます。

それが、9章では「恐れおののき」と書かれることにより、人間がより強い力を持つ関係性への変化が感じられます。それは、続く節とも関連があるでしょう。
9：3
動いている命あるものは、すべてあなたたちの食糧とするがよい。わたしはこれらすべてのものを、青草と同じようにあなたたちに与える。
人間が他の命をいただいて生きること。これが主によって許され、人はより強い力を持つこととなりました。1節と7節で2度、「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と語られるのに挟まれていますから、人が地に満ちていくためにも必要なことだと神さまが考えられたのでしょう。

9：5
また、あなたたちの命である血が流された場合、わたしは賠償を要求する。いかなる獣からも要求する。
ただし、それは神の被造物をいただく行為であり、たとえ獣同士で食べ合うことであっても「賠償を要求する」と主は語られています。そして人が肉を食べるにあたっても「命である血」を除くように指定されており、神が造られた命への敬意が求められていることが分かります。人間は決して万物を好き勝手に支配できるのではなく、「あなたたちの手にゆだねられる」（9：2）「あなたたちに与える」（9：3）との御言葉にもあるように、主から託され許された範囲、限度があることを心に留めたいと思います。

この箇所を心に留めると、食前の祈りの在り方、そしてノンクリスチャンの方も含め日本人は皆が言う「いただきます」の意味も変わるな、と思いました。私たちは生き物の命をいただくだけでなく、神さまが造られた世界の一部を、神さまからいただくのです。

「産めよ、増えよ、地に満ちよ」の実現にあたり、次に主が語られたのが人間同士が命を奪うことへの警告です。

9:5-6

人間どうしの血については、人間から人間の命を賠償として要求する。人の血を流す者は人によって自分の血を流される。人は神にかたどって造られたからだ。

同じ人間の命を奪えば、あなたの命を要求すると主は語ります。もちろんこれは神の権威によってのみ語りえる言葉であり、これを報復や死刑制度など人間がする行為の根拠としてはなりません。ただ、それほどに人の命を奪うことは重い罪である、と神さまが明言しているのです。洪水以前の世の中が、具体的にどう乱れていたのかは分かりません。しかし主の語り掛けを踏まえれば、殺人すら横行するような社会だったのかもしれません。この神の警告は、いまを生きる私たちにも、何ら目減りすることなく有効な言葉であると思います。

他の命をいただくことを許し、人間同士で命を奪い合うことを禁じ、その上で「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と励ましてくださる主の愛に感謝します。

ようやく虹の話です。主は「契約」という言葉を繰り返して、二度と洪水で世界を滅ぼすことはしないと語られました。現代の人間社会において「契約」といえば、基本的には対等な関係性にある者同士が互いの利益のために結ぶものであり、違反に対しては何らかのペナルティが存在します。このペナルティの存在こそが、契約を契約として成立させているとも言えるでしょう。

虹で表された神さまからの契約は、そうした私たちの常識を大きく超えています。本来、神さまが私たちに「契約」をしてくださる必要などなく、ただ神の意志に準じて世界の全てをお決めになればよいのです。またこの契約に際し、人間の側には何も課されていません。〇〇をしたら、あるいは〇〇をしなければ、この契約を破棄する等と主は語られていないのです。その意味で、これは人間社会における契約というよりは、主の一方的な憐れみによる「宣言」に近いと思います。

そして、全知全能の神自らが、虹を見るたびにこの契約を「心に留める」と語られています。心に決めたこと、誰かと約束したことを忘れ、好き勝手をしてしまうのは人間の方であり、神ではありません。このみ言葉からは、弱い人間に寄り添い、歩み寄ってくださる主の姿を感じます。

ここまで深い愛を示していただき、何の義務も課さずに契約をしてくださる神さまに、私たちはどのように応えていけばよいのでしょうか。与えられた自由の用い方を、主に教えていただきながら歩んでいきたいと願います。

～分かち合い～

・ただ「産めよ、増えよ、地に満ちよ」とだけ仰るのではなく、人間に様々なことをお伝えになった神さまのお姿から、どのようなことを感じましたか。

・私たちには、虹を見るたびに何を思い起こすべきでしょうか。

９月１０日（日）創世記９章１－１７節

1神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。
「産めよ、増えよ、地に満ちよ。 2地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと
海のすべての魚と共に、あなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手にゆだねられる。 3動い
ている命あるものは、すべてあなたたちの食糧とするがよい。わたしはこれらすべてのものを、青
草と同じようにあなたたちに与える。 4ただし、肉は命である血を含んだまま食べてはならない。
5また、あなたたちの命である血が流された場合、わたしは賠償を要求する。いかなる獣からも要求
する。人間どうしの血については、人間から人間の命を賠償として要求する。
6人の血を流す者は
人によって自分の血を流される。
人は神にかたどって造られたからだ。
7あなたたちは産めよ、増えよ
地に群がり、地に増えよ。」
8神はノアと彼の息子たちに言われた。
9「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。 10あなたたちと共にいるす
べての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべての
もののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。 11わたしがあなたたちと契約を立てたならば、
二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすこ
とも決してない。」
12更に神は言われた。
「あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々とこしえにわたしが立てる契
約のしるしはこれである。 13すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地
の間に立てた契約のしるしとなる。 14わたしが地の上に雲を湧き起こらせ、雲の中に虹が現れる
と、 15わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた
契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。 16雲の中に
虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立て
た永遠の契約に心を留める。」
17神はノアに言われた。
「これが、わたしと地上のすべて肉なるものとの間に立てた契約のしるしである。」

神さまがノアに与えられた契約は今、その通りになっていると言えます。
神さまが大地との間に立てた契約の印が「雲の中の虹」、これからは特別な思いで眺められます
ね。

９月１１日（月）ローマの信徒への手紙８章１８－２２節

18現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないとわたしは
思います。 19被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。 20被造物は虚無に服し
ていますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同
時に希望も持っています。 21つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供た
ちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。 22被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの
苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。

前節に「キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。」（８：１７）とあります。希望、それも失うことのない確約された希望であるなら頑張っていけますね。

９月１２日（火）エフェソの信徒への手紙１章３－９節

3わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたち
をキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。 4天地創造の前に、神
はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選
びになりました。 5イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めに
なったのです。 6神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがた
たえるためです。 7わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。
これは、神の豊かな恵みによるものです。 8神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべて
の知恵と理解とを与えて、 9秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前
もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。

神さまの秘められたご計画、聖書に記された部分は私たちに明らかにして下さっています。これからどの様になっていくかは分かりませんが、最後には私たち皆が神の子とさせて頂くことが約束されています。

９月１３日（水）イザヤ書１１章６－９節

6狼は小羊と共に宿り
豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち
小さい子供がそれらを導く。
7牛も熊も共に草をはみ
その子らは共に伏し
獅子も牛もひとしく干し草を食らう。

8乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ
幼子は蝮の巣に手を入れる。
9わたしの聖なる山においては
何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように
大地は主を知る知識で満たされる。

手塚治虫先生の漫画「ジャングル大帝」の主人公、白いライオンのレオは肉を食べずに草を食べていたのを思い出します。「聖書物語」を描いている先生ですので、この聖句をイメージしていたと推測出来ます。この世が天国のようになったら、「何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。」世界になっていくのではないでしょうか。

９月１４日（木）創世記３章１７－１９節、５章２９節

17神はアダムに向かって言われた。
「お前は女の声に従い
取って食べるなと命じた木から食べた。
お前のゆえに、土は呪われるものとなった。
お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。
18お前に対して
土は茨とあざみを生えいでさせる
野の草を食べようとするお前に。
19お前は顔に汗を流してパンを得る
土に返るときまで。
お前がそこから取られた土に。
塵にすぎないお前は塵に返る。」

29彼は、「主の呪いを受けた大地で働く我々の手の苦労を、この子は慰めてくれるであろう」と言って、その子をノア（慰め）と名付けた。

「主の呪いを受けた大地」、「神さまの呪い」と聞くだけで怖いです。神さまから直接言われたアダムも恐怖したと思います。でもこの後、神さまは二人に皮の衣を作って着せてくれます。

９月１５日（金）ヨハネによる福音書２章１－１１節

1三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。 2イエスも、その弟子たち
も婚礼に招かれた。 3ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりまし
た」と言った。 4イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わた
しの時はまだ来ていません。」 5しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そ
のとおりにしてください」と言った。 6そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置い
てあった。いずれも二ないし三メトレテス入りのものである。 7イエスが、「水がめに水をいっぱ
い入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。 8イエスは、「さ
あ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで
行った。 9世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水を
くんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、 10言った。「だ
れでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは
良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」 11イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで
行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

イエスさまと母マリアの関係がこの会話から何となく想像できます。息子として育てたイエスさまの性格を知っているからこその会話ですね。イエスさまのこの回答を聞いて、対応してくれると認識している所は親子な感じが出ています。そして、これから「救い主」として働いていくための力を与えられていることも。

９月１６日（土）ローマの信徒への手紙１３章１１－１４節

11更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時
が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。
12夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。 13日
中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみ
を捨て、 14主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いて
はなりません。

そうありたいと願っても、自分自身ではまず無理ですね。祈り委ねて、私自身をその様に変えさせて頂くのが正解なのかと。私の場合は努力しなさ過ぎなのかもしれませんけど．．．

第25課　「ノアの息子たち」

聖書箇所：創世記9章18～28節
主題聖句：この三人がノアの息子で、全世界の人々は彼らから出て
広がったのである。（創世記9：19）

前回の9章1節～17節において、神はノアと三人の息子たちを祝福し、契約を立てられます。それは「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」（9章9節～11節）というものでした。そしてこの契約は二度目の契約となります。一度目は、6章18節の「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。」でした。

契約が立てられるという祝福は、19節の「全世界の人々は彼らから出て広がった」からもわかるように、9章1節の「産めよ、増えよ、地に満ちよ。」の成就を表していると考えることができます。
続くノアの息子たちの聖書の記述は、非常に難解な箇所とされており、様々な解釈がされています。
セム、ハム、ヤフェトという順番で書かれていますが、セムが長男、ヤフェトが次男、ハムが三男とされています。（24節）この三人は地上の諸民族の始祖と言われています。
セムの子孫であるイスラエルの民は、後にカナン人（カナンの子孫）の地に入り、そこを占領しました。ハムの子は、クシュ、エジプト、プト、カナンであり（10章6節～20節）その子孫が、現在のエチオピアとスーダンの一部を含む、エジプトの南の地域を支配されたとされています。ヤフェトの子孫は、小アジアとユーフラテス川上流地域に位置していたと言われています。

ノアは農夫となりぶどう畑を作ります。旧約においては、ぶどうの木は神によるイスラエルの象徴ともされており、ぶどうの木の下に座すことは「平和と繁栄」を意味するとも考えられています。新約では、イエスさまがご自分をぶどうの木にたとえ「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝である。」（ヨハネ15：5）と言われます。
このことからも、ノアが祝福されていたことが窺えます。

次に、一転、カナンに向けられたノアの呪いを、どう解釈すればよいのでしょうか。聖書に書かれている言葉をそのまま読むには、あまりにも情報が少な過ぎるようです。
この呪いは、後に起こる神によるカナン人と町の絶滅を示唆しているとも言われています。（民数記21章1節～3節）
レビ記18章3節には、「あなたたちがかつて住んでいたエジプトの国の風習や、わたしがこれからあなたたちを連れて行くカナンの風習に従ってはならない。その掟に従って歩んではならない。」とあります。
（その風習は、レビ記18章24節～30節を参照）

ハムによるノアへの行為ですが、あまりに多種多様な見解、解釈、創作があり、読んでいるには面白く読むことができますが、目を覆いたくなるような創作もあります。
聖書の解釈は、逐語的に読む必要はありませんが、歴史的史実、他の聖書箇所の資料からの推し量りが大切であると思われます。

ノアによる呪いの言葉ですが、この言葉は神からのものではなく、あくまで人間ノアによるものであるということにも注目すべきと思われます。
25節では「こう言った。カナンは呪われよ奴隷の奴隷となり、兄たちに仕えよ。」
26節で「また言った。セムの神、主をたたえよ。カナンはセムの奴隷となれ。」
27節で「神がヤフェトの土地を広げセムの天幕に住まわせカナンはその奴隷となれ。」
と、二度までもカナンに対して、セムの奴隷になれと言葉を続けています。
この三つの節を読むとセム、ヤフェト、カナンが兄弟なのではないかという錯覚も起こります。

そして、「セムの神、主をたたえよ」というこの言葉は、アブラハムがセムの子孫から出ていることから、後のイスラエルによる、カナン人支配を示唆していると、読むことができるとされています。

聖書の物語をそのまま実際に起きたこととして読んだとして、人間ならどんなに正しい人でも時に愚かな行動をとってしまうこと。ノアの人間らしさが窺え、洪水の後三百五十年生き、九百五十歳まで生きているので、神さまの祝福は変わらぬこと。
そして三人の息子たちの子孫から、続く10章の系図にあるように、いくつもの民族が誕生します。
ハムの行動は、父への尊敬と思慮深さに欠けていることから父ノアの怒りを買ってしまったとも理解できます。一方兄たちは、常に祈り自らの言動を主に訊ねる人であったと読むこともできるのではないでしょうか。

私たちは、信仰生活において日々祈りをお捧げし、神さまと対話をさせていただき、自分の進むべき道を訊ね、既にご計画の中にすべてがあることを感謝し、結果はおゆだねします。
そして私が日々祈らずにはいられないのは、愚かで小さな罪をおかし続けてしまう自分を赦していただくこと、主の問いかけに気づかず過ごしてしまうことを赦していただくこと、サタンが入り込むすきを作ってしまうことを赦していただくこと・・・。
赦していただくことがあまりにも多すぎる私を、見捨てることなく強めてくださる主に、常にお訊きし行動するものでありたいと思います。

難解な聖書箇所を通して、様々な読み方ができる中で、その時その時受け取ることのできるみ言葉は違うと思います。
原語で読んでいるのではないことを頭の隅に置きながら、礼拝での宣教者のメッセージや聖書の学びでの分かち合いを通して、確かにみ言葉は届けられていること、そのみ言葉によって私たちは生かされていることを心から感謝し続けることができますようにとお祈りいたします。

～分かち合い～
・神さまのご計画の中で生かされていると気づいた経験はありますか？

９月１７日（日）創世記９章１８－２８節

18箱舟から出たノアの息子は、セム、ハム、ヤフェトであった。ハムはカナンの父である。 19この三人がノアの息子で、全世界の人々は彼らから出て広がったのである。
20さて、ノアは農夫となり、ぶどう畑を作った。 21あるとき、ノアはぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた。 22カナンの父ハムは、自分の父の裸を見て、外にいた二人の兄弟に告げた。 23セムとヤフェトは着物を取って自分たちの肩に掛け、後ろ向きに歩いて行き、父の裸を覆った。二人は顔を背けたままで、父の裸を見なかった。 24ノアは酔いからさめると、末の息子がしたことを知り、 25こう言った。
「カナンは呪われよ
奴隷の奴隷となり、兄たちに仕えよ。」
26また言った。
「セムの神、主をたたえよ。
カナンはセムの奴隷となれ。
27神がヤフェトの土地を広げ（ヤフェト）
セムの天幕に住まわせ
カナンはその奴隷となれ。」
28ノアは、洪水の後三百五十年生きた。

ここではノアがどのような失敗をしてもその罪が責められていると言うよりは、その失態を見て無思慮に告げ口をしたハムが責められています。泥酔と言う予想外の姿に示された父の弱さをカバーしようとして、一切口外もしないセムとヤフェトに家族としての責任感も示されます。正しい人の代表の様に思われていたノアも、失敗してしまうことがあると言うことに人間の性を教えられます。

９月１８日（月）コリントの信徒への手紙一１０章２３節－１１章１節

23「すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことがわたしたちを造り上げるわけではない。 24だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。 25市場で売っているものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。 26「地とそこに満ちているものは、主のもの」だからです。 27あなたがたが、信仰を持っていない人から招待され、それに応じる場合、自分の前に出されるものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。 28しかし、もしだれかがあなたがたに、「これは偶像に供えられた肉です」と言うなら、その人のため、また、良心のために食べてはいけません。 29わたしがこの場合、「良心」と言うのは、自分の良心ではなく、そのように言う他人の良心のことです。どうしてわたしの自由が、他人の良心によって左右されることがありましょう。 30わたしが感謝して食べているのに、そのわたしが感謝しているものについて、なぜ

悪口を言われるわけがあるのです。 31だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。 32ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。 33わたしも、人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求めて、すべての点ですべての人を喜ばそうとしているのですから。
1わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

私たちはすべてのことが許されています。重箱の隅を突くような枝葉のことは、掘り返さずとも自由が与えられています。 ただその与えられた自由によって私たちが、人々にも教会にもつまづきの石となることがありませんようにと祈り願います。人々にとって有益な者となれますなら幸いで光栄です。

９月１９日（火）箴言１０章１１－２０節

11神に従う人の口は命の源
神に逆らう者の口は不法を隠す。
12憎しみはいさかいを引き起こす。
愛はすべての罪を覆う。
13聡明な唇には知恵がある。
意志の弱い者の背には杖。
14知恵ある人は知識を隠す。
無知な者の口には破滅が近い。
15金持ちの財産は彼の砦
弱い人の貧乏は破滅。
16神に従う人の収入は生活を支えるため
神に逆らう者の稼ぎは罪のため。
17諭しを守る人は命の道を歩み
懲らしめを捨てる者は踏み誤る。
18うそを言う唇は憎しみを隠している。
愚か者は悪口を言う。
19口数が多ければ罪は避けえない。
唇を制すれば成功する。
20神に従う人の舌は精選された銀。
神に逆らう者の心は無に等しい。

神に従う人の口は命の源(11節) 愛は全ての罪を覆う(12節)人の罪をただ責めるだけでは罪から離れるのは難しいでしょう。むしろ愛が人を真の悔い改めへと導かれます。愛が罪を犯した人のやり場の無いうずいている心を包んで、赦し、いやしへと導いてくれます。命の源(神さま)から、愛をいただいている者(私たち)の口も「命の源」と言われることに恐多さを覚えます。

９月２０日（水）詩編１３９編２３－２４節

23神よ、わたしを究め
わたしの心を知ってください。
わたしを試し、悩みを知ってください。
24御覧ください
わたしの内に迷いの道があるかどうかを。
どうか、わたしを
とこしえの道に導いてください。

日々のデボーションで主の前に鎮まり、祈ることの大切さを教えて下さいます。 主は私たちの全てをご存知でおられると知ってはいますが、日々このように主にお話しする中でお答えをお聞きしたり、確信と平安に満たされてどのような時も心穏やかに過ごさせていただきたいです。

９月２１日（木）創世記１０章１－１２節

1ノアの息子、セム、ハム、ヤフェトの系図は次のとおりである。洪水の後、彼らに息子が生まれた。
2ヤフェトの子孫はゴメル、マゴグ、メディア、ヤワン、トバル、メシェク、ティラスであった。 3ゴメルの子孫は、アシュケナズ、リファト、トガルマであった。 4ヤワンの子孫は、エリシャ、タルシシュ、キティム、ロダニムであった。 5海沿いの国々は、彼らから出て、それぞれの地に、その言語、氏族、民族に従って住むようになった。
6ハムの子孫は、クシュ、エジプト、プト、カナンであった。 7クシュの子孫はセバ、ハビラ、サブタ、ラマ、サブテカであり、ラマの子孫はシェバとデダンであった。 8クシュにはまた、ニムロドが生まれた。ニムロドは地上で最初の勇士となった。 9彼は、主の御前に勇敢な狩人であり、「主の御前に勇敢な狩人ニムロドのようだ」という言い方がある。 10彼の王国の主な町は、バベル、ウルク、アッカドであり、それらはすべてシンアルの地にあった。 11彼はその地方からアッシリアに進み、ニネベ、レホボト・イル、カラ、 12レセンを建てた。レセンはニネベとカラとの間にある、非常に大きな町であった。

ノアの洪水の後、子孫たちは大きく広がっていきます。中にはニムロドのように強く逞しい者も生まれ王国も築かれました。先に立つ王が、神さまが愛する民全体のことを気にかけ、慈しみを持って治めてくれればこんな幸いなことはありません。が、ここにニネベの塔があったと聞く時に、再び人々の心に傲慢が芽生えて来たことを思います。悔い改めの祈りも忘れずに歩んでまいりたいです。

９月２２日（金）詩編１４編１－７節

1【指揮者によって。ダビデの詩。】
神を知らぬ者は心に言う
「神などない」と。
人々は腐敗している。
忌むべき行いをする。
善を行う者はいない。

2主は天から人の子らを見渡し、探される
目覚めた人、神を求める人はいないか、と。
3だれもかれも背き去った。
皆ともに、汚れている。
善を行う者はいない。ひとりもいない。
4悪を行う者は知っているはずではないか。
パンを食らうかのようにわたしの民を食らい
主を呼び求めることをしない者よ。
5そのゆえにこそ、大いに恐れるがよい。
神は従う人々の群れにいます。
6貧しい人の計らいをお前たちが挫折させても
主は必ず、避けどころとなってくださる。
7どうか、イスラエルの救いが
シオンから起こるように。
主が御自分の民、捕われ人を連れ帰られるとき
ヤコブは喜び躍り
イスラエルは喜び祝うであろう。

神さまを知らない者は「神などない」と心に言います。人々は腐敗(乱れている、滅びている)していて善を行う者はいません。ローマ書で言う様に正しいものは者は一人もいません。ですが例え、不法な者が貧しい者に策略を仕掛け挫折させても、主は従う人々の群れの中にいて下さり必ず主が避けどころになって下さる。ハレルヤ！どうか救いが(今)天から起こされ、喜びで満たされます様に！

９月２３日（土）使徒言行録２章１－１３節

1五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、 2突然、激しい風が吹いて来るような音
が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。 3そして、炎のような舌が分かれ分かれに現
れ、一人一人の上にとどまった。 4すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほ
かの国々の言葉で話しだした。
5さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、 6こ
の物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを
聞いて、あっけにとられてしまった。 7人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たち
は、皆ガリラヤの人ではないか。 8どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞く
のだろうか。 9わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソ
ポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、 10フリギア、パンフィリア、エジプト、キレ
ネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、 11ユダヤ人もいれ
ば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言
葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」 12人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これ
はどういうことなのか」と互いに言った。 13しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っている
のだ」と言って、あざける者もいた。

このペンテコステの日、父の約束を待ち・・・。聖霊のバプテスマを受けるため(1:4~5)に祈りを合わせ、祈りに専念していた(1:14)そうした彼らに聖霊が臨みました。聖霊に満たされた彼らは先ず証人として、主イエスを証しする使命に励む者になりました。私たち異言は話せずとも多国の友と思いを一つに聖霊の満たし、人々の救いと平和を祈り求めて参りたいです。

第26課　「バベルと呼ばれた町」

聖書箇所：創世記11章1～9節

主題聖句：わたしがあなたの前に置いた祝福と呪い、これらのことがすべてあなたに臨み、あなたが、あなたの神、主によって追いやられたすべての国々で、それを思い起こし、あなたの神、主のもとに立ち帰り、わたしが今日命じるとおり、あなたの子らと共に、心を尽くし、魂を尽くして御声に聞き従うならば、あなたの神、主はあなたの運命を回復し、あなたを憐れみ、あなたの神、主が追い散らされたすべての民の中から再び集めてくださる。

（申命記30章1-3節）

今週の聖書教育誌の週題は「バベルと呼ばれた町」です。

11:1 世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。

箱舟から出たノアの息子たち、セム、ハム、ヤファトの子孫たちはそれぞれの地に、その氏族、言語、地域、民族ごとに従って住むようになったと10章に記されています。ノアと三人の息子は当然に同じ言葉を使っていましたが、洪水の後、各地に散らされ人口も民族も増えていったことがわかります。

人々はエデンの園から次第に遠く離れた場所にも定住していくことで元は同じ言葉を話していた人々も環境が変わることで次第に、それぞれの地域で互いに意味は理解できるものの異なる独特な方言になっていったと考えられています。私たちの日本でも同じ日本語と言っても各地の方言は独特であって、他の地域の人にとっては話される内容がにわかには理解できないことも知っています。

しかし、それだけでは現代に至る多様な世界の言語が存在する理由を解き明かすものとはならないでしょう。本日の聖書箇所11章に小見出しに「バベルの塔」として記されている物語が、どうして諸民族の言葉に分かれて行ったかを知らされるものなのです。

さて、東方から移動してきた人々はシンアルの地(バビロン)の広大な平野を見つけて定住を始めました。

11:3 彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。

それまでの石と日干しレンガとしっくいにより建物を建てていた人々にとって窯で焼き上げる「れんが」の発明と瀝青(アスファルト)の発見は彼らの形成してきた文明にとって19世紀の産業革命のような画期的な発明・発見でした。これにより、これまでは出来なかった巨大な構造物を築くことが可能となりました。結果として彼らは自らを誇り、神を忘れた高慢な民となっていきました。

11:4 彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。

彼らが求めたのは、町に出来る限り大きな天までとどくかのような高い塔を建てること。それにより名をあげて外敵の脅威に対抗し、散らされた民を集めて町の住民を増すことでした。その地域、その町の支配者にとっては、より多くの民を自分の支配下におくことで自らの権勢をより強く大きくすることを目指したのでしょう。また、その支配者に盲従する民も多くあったのでしょう。

主なる神は、この有り様をご覧になって言われました。

11:6-7 「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。
これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」

彼らが外敵に対して、また自らの権勢を誇った塔は神の目からは降ってこられなければ見えないほどのものでありました。神の前には、まことに小さく、取るに足らないものに等しかったのです。
彼らの成そうと望んだものは言葉の統一性という神からの豊かな祝福を忘れ、**「全地に散る」**という神のご意思にも背くものであったのです。神を忘れ、神と繋がることを忘れた民は神を抜きにした統一性・一体性を見出そうとします。それは塔で象徴される人間が造りあげた神ならぬ偶像を神とすることです。神に背いた文明を築いていくことでもあります。
ここに神が見逃すことができない彼らの罪がありました。

「彼らが何を企てても、妨げることはできない。」　それでも、神は忍耐なさる神であり、人を愛される神であられますが歴史に介入されるお方でもあります。彼らの言葉を乱すことで計画を混乱させて民が共同して神のようになろうとしたり、神に背くことがないようにしてくださったのです。この物語は神の裁きでありますが、実は救いに繋がる物語でもあるのです。

11:9 こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。
主がそこで全地の言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。
こうして神は民の言葉を散らされたので人々は塔と町の建設をやめて、それぞれに同じ言葉であった人々が集まり全地に散らされたと聖書は語ります。
言葉は乱され民は散らされました。しかし、神はそのままに捨て置くのではなく回復の道を備えてくださいました。

申命記30章3節　あなたの神、主はあなたの運命を回復し、あなたを憐れみ、あなたの神、主が追い散らされたすべての民の中から再び集めてくださる。
神は散らされた民の運命を回復し、民を憐れみ再び集めてくださると約束してくださったのです。

旧約の時代はモーセの律法により、キリスト以後の時代から現代の私たちにとっての運命の回復は使徒言行録2章のペンテコステの記事にあるように思います。イエス・キリストは教会を誕生させてくださり、福音が全世界に告げ知らされるようになさいました。言語の統一性よりも世界中どこでも同じキリストの福音が告げ知らされる共通性によって散らされた民を恵みにより招き集めてくださいました。
キリストを求める人は「バベルと呼ばれた町」から「神の家族」として招かれ、集められ、繋がることで神の御手のなかにある幸いのなかに招き入れられるのです。

曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも あなたはそこにもいまし
御手をもってわたしを導き 右の御手をもってわたしをとらえてくださる。
詩篇139:9～10

～分かち合い～
・あなたが感じている現代のバベルの塔は何かを分かち合ってみましょう。

９月２４日（日）創世記１１章１－９節

1世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。 2東の方から移動してきた人々は、シンアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。
3彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくいの代わりにアスファルトを用いた。 4彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。
5主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、 6言われた。
「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。 7我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」
8主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。 9こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。

今、世界の国は197か国あります。言葉は違います。人間はその地に合った生活をして豊かな文化を生み出しました。各国それぞれの個性があります。その中に日本もあります。日本の文化も素敵です。生まれ育ったこの国が好きです。世界のそれぞれの国の人々が平和に幸せに暮らせますように。

９月２５日（月）出エジプト記２０章１－１７節

1神はこれらすべての言葉を告げられた。
2「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。 3あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。
4あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。 5あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、 6わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。
7あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかれない。
8安息日を心に留め、これを聖別せよ。 9六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、 10七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。 11六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

12あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。
13殺してはならない。
14姦淫してはならない。
15盗んではならない。
16隣人に関して偽証してはならない。
17隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

神さまは私たちを愛してくださっています。人々が安心して安全に暮らせるように、十戒を定めて下さいました。神さま、感謝致します。

９月２６日（火）使徒言行録１１章１９－２６節

19ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかった。 20しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。 21主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かった。 22このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。 23バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。 24バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。 25それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、 26見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間そこの教会に一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

バルナバは固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。バルナバは聖霊と信仰とに満ちていたからである。なぜか安心が得られるのです。心がなごむのです。この人は信頼できると感じるのです。バルナバの言葉が素直に皆の心に入り、主へと導かれました。聖霊さま、感謝致します。

９月２７日（水）コリントの信徒への手紙一１２章１２－２７節

12体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。 13つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。 14体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。 15足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体

の一部でなくなるでしょうか。 16耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。 17もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでにおいをかぎますか。 18そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。 19すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。 20だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。 21目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。 22それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。 23わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようとします。 24見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。 25それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。 26一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。
27あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

体のどの部分もつながっています。それぞれが大切なのです。一つの部分が苦しめばすべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。常盤台教会に、あなたもつながっています。あなたの喜びはみんなの喜びです。

９月２８日（木）イザヤ書１章１－９節

1アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た幻。
これはユダの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの治世のことである。
2天よ聞け、地よ耳を傾けよ、主が語られる。
わたしは子らを育てて大きくした。
しかし、彼らはわたしに背いた。
3牛は飼い主を知り
ろばは主人の飼い葉桶を知っている。
しかし、イスラエルは知らず
わたしの民は見分けない。
4災いだ、罪を犯す国、咎の重い民
悪を行う者の子孫、堕落した子らは。
彼らは主を捨て
イスラエルの聖なる方を侮り、背を向けた。
5何故、お前たちは背きを重ね
なおも打たれようとするのか
頭は病み、心臓は衰えているのに。
6頭から足の裏まで、満足なところはない。
打ち傷、鞭のあと、生傷は
ぬぐわれず、包まれず
油で和らげてもらえない。

7お前たちの地は荒廃し、町々は焼き払われ
田畑の実りは、お前たちの目の前で
異国の民が食い尽くし
異国の民に覆されて、荒廃している。
8そして、娘シオンが残った
包囲された町として。
ぶどう畑の仮小屋のように
きゅうり畑の見張り小屋のように。
9もし、万軍の主がわたしたちのために
わずかでも生存者を残されなかったなら
わたしたちはソドムのようになり
ゴモラに似たものとなっていたであろう。

彼らは主を捨て、聖なる方をあなどり、背を向けた。何故、お前たちは背きを重ね、なおも打たれようとするのか。しかし、主はおみすてにはならない。主は希望の生存者を残された。あなた方をソドムやゴモラのようにはしないと。主よ感謝致します。

９月２９日（金）ヨハネによる福音書１章１－１３節

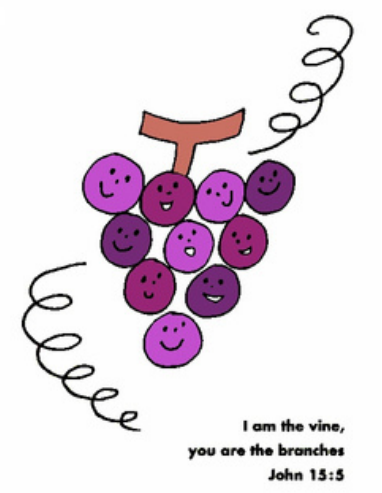
1初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。 2この言は、初めに神と共にあった。
3万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。 4言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。 5光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。
6神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。 7彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。 8彼は光ではなく、光について証しをするために来た。 9その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。 10言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。 11言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。 12しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。 13この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

言(ことば)は正しかった。しかし立場が危うくなるのを感じ、権力者はねたみ、嫉妬し心が正しさを受け入れなかった。言(ことば)は自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。今、多くの国々へ人々へ、言(ことば)は浸透して世界中に広まっています。私もそのなかの一人。イエスさま、あなたを信じ賛美を致します。

９月３０日（土）列王記上２１章１－２４節

1これらの出来事の後のことである。イズレエルの人ナボトは、イズレエルにぶどう畑を持っていた。畑はサマリアの王アハブの宮殿のそばにあった。 2アハブはナボトに話を持ちかけた。「お前のぶどう畑を譲ってくれ。わたしの宮殿のすぐ隣にあるので、それをわたしの菜園にしたい。その代わり、お前にはもっと良いぶどう畑を与えよう。もし望むなら、それに相当する代金を銀で支払ってもよい。」 3ナボトはアハブに、「先祖から伝わる嗣業の土地を譲ることなど、主にかけてわたしにはできません」と言った。 4アハブは、イズレエルの人ナボトが、「先祖から伝わる嗣業の土地を譲ることはできない」と言ったその言葉に機嫌を損ね、腹を立てて宮殿に帰って行った。寝台に横たわった彼は顔を背け、食事も取らなかった。 5妻のイゼベルが来て、「どうしてそんなに御機嫌が悪く、食事もなさらないのですか」と尋ねると、 6彼は妻に語った。「イズレエルの人ナボトに、彼のぶどう畑をわたしに銀で買い取らせるか、あるいは望むなら代わりの畑と取り替えさせるか、いずれにしても譲ってくれと申し入れたが、畑は譲れないと言うのだ。」 7妻のイゼベルは王に言った。「今イスラエルを支配しているのはあなたです。起きて食事をし、元気を出してください。わたしがイズレエルの人ナボトのぶどう畑を手に入れてあげましょう。」
8イゼベルはアハブの名で手紙を書き、アハブの印を押して封をし、その手紙をナボトのいる町に住む長老と貴族に送った。 9その手紙にはこう書かれていた。「断食を布告し、ナボトを民の最前列に座らせよ。 10ならず者を二人彼に向かって座らせ、ナボトが神と王とを呪った、と証言させよ。こうしてナボトを引き出し、石で打ち殺せ。」 11その町の人々、その町に住む長老と貴族たちはイゼベルが命じたとおり、すなわち彼女が手紙で彼らに書き送ったとおりに行った。 12彼らは断食を布告し、ナボトを民の最前列に座らせた。 13ならず者も二人来てナボトに向かって座った。ならず者たちは民の前でナボトに対して証言し、「ナボトは神と王とを呪った」と言った。人々は彼を町の外に引き出し、石で打ち殺した。 14彼らはイゼベルに使いを送って、ナボトが石で打ち殺されたと伝えた。 15イゼベルはナボトが石で打ち殺されたと聞くと、アハブに言った。「イズレエルの人ナボトが、銀と引き換えにあなたに譲るのを拒んだあのぶどう畑を、直ちに自分のものにしてください。ナボトはもう生きていません。死んだのです。」 16アハブはナボトが死んだと聞くと、直ちにイズレエルの人ナボトのぶどう畑を自分のものにしようと下って行った。
17そのとき、主の言葉がティシュベ人エリヤに臨んだ。 18「直ちに下って行き、サマリアに住むイスラエルの王アハブに会え。彼はナボトのぶどう畑を自分のものにしようと下って来て、そこにいる。 19彼に告げよ。『主はこう言われる。あなたは人を殺したうえに、その人の所有物を自分のものにしようとするのか。』また彼に告げよ。『主はこう言われる。犬の群れがナボトの血をなめたその場所で、あなたの血を犬の群れがなめることになる。』」 20アハブがエリヤに、「わたしの敵よ、わたしを見つけたのか」と言うと、エリヤは答えた。「そうだ。あなたは自分を売り渡して主の目に悪とされることに身をゆだねたからだ。 21『見よ、わたしはあなたに災いをくだし、あなたの子孫を除き去る。イスラエルにおいてアハブに属する男子を、つながれている者も解き放たれている者もすべて絶ち滅ぼす。 22わたしはあなたが招いた怒りのため、またイスラエルの人々に罪を犯させたため、あなたの家をネバトの子ヤロブアムの家と同じように、またアヒヤの子バシャの家と同じようにする。』 23主はイゼベルにもこう告げられる。『イゼベルはイズレエルの塁壁の中で犬の群れの餌食になる。 24アハブに属する者は、町で死ねば犬に食われ、野で死ねば空の鳥の餌食になる。』」

王さまの機嫌をそこねた事で、ナボトは殺されました。本人の無念さもあるでしょう。ナボトの家族や親しい人々は怒りを持った事でしょう。神さまは怒りの復讐は私に任せなさいと言われます。今、世界中に紛争、弾圧、戦争が起こっています。一握りの権力者によって多くの人々が苦しんでいます。神さま、どうぞ苦しむ人々に寄り添い、助けて下さい。お願いします。



2023.9　成人科